

第6章

札幌市男女共同参画センターの4つの事業展開

岡本 峰子

1 はじめに

札幌市男女共同参画センターでは若年女性が抱える課題に向き合った事業として4つの事業展開を行ってきた。そのなかでも、特に新たな試みを精力的に展開した2012年から2016年の実践について報告したい。

その4つの実践事業はトライアルで実施したものが多く、いずれの事業も課題解決に向けた成果は充分とはいえないが、札幌に在住する若年女性たちの小さな声に耳を傾けそれらを増幅し形にしてきた小さな取組みである。

後述するが、これらの挑戦と数々の試行錯誤を経て想定外に得たものは、男女共同参画センターの意欲的かつ挑戦的な取組みを評価する市民団体、NPOなど外部機関や組織との“絆”とも呼べる協力関係である。それらは今後、力強いネットワークとなり社会に変化を起こす種子として期待できるものであると感じる。

2 若年・男性への男女共同参画

第3次男女共同参画基本計画において改めて強調している「視点」の2項目めに「男性、子どもにとっての男女共同参画」がある。その中で、子ども

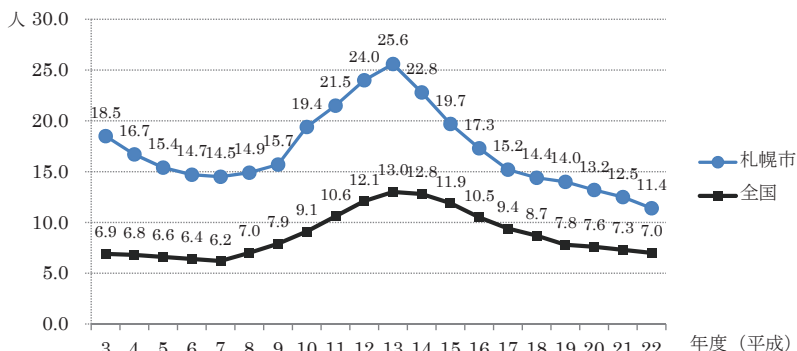
Ⅱ 実践の展開

の頃から男女共同参画の理解を促進することが重要であり、犯罪の被害を受けていて支援が必要な子どもなどの問題も顕在化しているため、安全で安心に暮らせる環境づくりのため、社会全体で子どもたちを支えることの必要性が記述されている。

さらに、札幌市男女共同参画推進条例の推進計画「第3次男女共同参画さっぽろプラン」（2013年度～2017年度）においても「男性と子どもにとっての男女共同参画」が新たな視点として位置付けられている。

札幌市においては10代の人工妊娠中絶率が全国平均よりも高いなどの課題を持つ。

図1 10代の人工妊娠中絶率（女子人口千対）の推移



札幌市：札幌市保健福祉局資料、全国：厚生労働省「母体保護統計」「衛生行政報告例」より作成

時期は多少前後するものの、前述の国の計画、政令市としての推進計画を元に、札幌市男女共同参画センター指定管理の3期目（2014年度～2017年度）の計画の中で「子ども・若者対象の取組み」を重点取組みと位置づけ、「ジェンダー」「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」の視点の促進、多様な将来ビジョン、ライフ・プランニング、ネットワークを活用した男女共同参画意識の浸透、支援者ネットワーク形成により課題の共有とそれぞれの支援活動の活性化と拡大・持続をねらい、4年間の計画を行った。

3 札幌市男女共同参画センターの背景

札幌市男女共同参画センター（以下、参画センター）は2003年9月1日に札幌駅北口の再開発エリアに民間ビルの一部を札幌市が所有する形で設置された。管理運営は、その前身施設である札幌市女性センター（札幌市中央区大通西19丁目所在）を1981年より管理運営を受託していた財団法人札幌市青少年婦人活動協会（現：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会）に継続して業務委託されることとなった。さらに2006年からは4年ごとの指定管理者制度が導入され同財団が管理者として選定された。

この財団は1980年に設立されて以来、グループワークの手法を用いて個人と個人、個人と団体、団体と団体を結び付け、青少年の健全育成と女性の社会参加を目指して札幌市内での事業展開と施設の管理運営を行ってきた団体である。このことから、それまでの経験で培ってきた市民のグループ化、ネットワークのきっかけ作り、自立した活動促進などの手腕と技術を、若年層の課題解決に向けた一連の事業展開にも生かしていった。

さらに施設の特徴となるのは、「札幌市市民活動サポートセンター」が併設されていることであった。男女共同参画にかかわる活動を行う市民活動団体及びNPOの活動の継続と発展などの支援を同一の施設内で共通の管理者が行うことでその機能がより一層高められたことにある。男女共同参画社会の形成につながる活動団体を引き寄せることに奏功するとともにグループ化した市民を自立した活動ができる団体へと押し上げていく働きを担った。

4 4つの事業

1つめは「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」を若年層へ浸透させようとスタートした「若年層への男女共同参画啓発のための居場所づくり事業～たまりんぱ～」である。前段の資料に見られるように札幌が10代の人工妊

II 実践の展開

娠中絶率が全国平均よりも高いことを踏まえての企画である。犯罪被害者に陥りやすい弱者である若年層に、事業を通して情報と知識、より良い支援ができる先輩や大人へ結びつきを作ろうと企画したものである。

2つめには「たまりんぱ」の特別企画として派生した「夢を形に！先輩に聞くお仕事研究会」である。多様な生き方の尊重とすべての人があらゆる場面で活躍できる男女共同参画社会のイメージを定着させようと企画したものである。

3つめの「子ども・青年への男女共同参画啓発事業」では就職活動中の女子学生をターゲットに、就職活動の中で様々な情報に翻弄され忘失したキャリア・ビジョンを発見・発掘あるいは再確認する機会として企画した事業である。

4つめは、若年層とかかわりの強い関係にある成人に向けての事業展開であり、若年層の課題を認識し、すでに活動を展開している個人や団体を結びつけ、大人たちの支援ネットワークづくりを目的とした事業である。

実践事例1 「中高生の居場所づくり事業～たまりんぱ」

2011年から開始した「中高生の居場所づくり事業～たまりんぱ」は、タイトルにあるとおり、札幌市内の繁華街やその近辺に滞留しているあるいは自分の安心できる居場所を見つけられない中学生や高校生（以下、中高生）たちの居場所を作り、信頼できる大人、先輩などに気軽に悩みを相談できる環境を創造しようと開始した。性や身体の悩み、異性との関係など思春期における様々な悩みを、親や教師とは違う立場の大人と対話し、認められる経験を通し当事者が自信を取り戻し、自己尊重や自己肯定感を高めていけることを狙ったものである。

この事業の企画運営には財団職員の力だけでは期待する効果は得られないと判断し、数年前から同世代における支援について意見交換や共催・協力事業を行ってきた北翔大学（北海道江別市）の中出佳操教授（2011年当時）が北海道支部長を務めておられた「日本ピア・サポート学会」の協力の元、同

校の学生・卒業生・大学院生に協力を仰ぐこととした。このメンバーは「ピア・サポーター」という名称で活動しており、中出教授の指導下、養成カリキュラムでトレーニングを受け、若年層に対するコミュニケーションのスキルを体得した方々である。

その後、この事業にかかわるメンバーを中心に2013年から「ピア活動団体 札幌たまりんぱ」として自立した活動を継続していくこととなる。

参画センターでは「たまりんぱ」の事業対象となる中高生への広報と集客が大きな課題であった。年間利用者数70万人にのぼる公共施設ではあるが、ターゲット層からの認識が高いとは言えない状況であった。

企画についてはポジティブなイメージで若年層を誘引し気軽に参加できるようなテーマでスタートしたが非常に悩ましいものであった。

表1 2011年度から2013年度の『たまりんぱ』開催状況

2011年度「中高生の居場所づくり『たまりんぱ』」開催状況

回	テ ー マ	開催日	人数
1	自分を知ろう！①	2011年9月16日（金）	0人
2	自分を知ろう！②～性格判断	2011年10月21日（金）	1人
3	コミュニケーションの練習をしよう！	2011年11月18日（金）	3人
4	恋愛や趣味、将来についてなんでも話そう！	2011年12月16日（金）	1人
5	おいしい時間を過ごそう！～料理実習	2012年1月20日（金）	1人
6	音楽を聴いてみんなで語ろう！	2012年2月17日（金）	2人
7	映画を見てみんなで語ろう！	2012年3月16日（金）	1人
人数合計			9人

※時間はいずれも18：00～20：00

2012年度「子ども・青年への男女共同参画啓発事業『たまりんぱ』」開催状況

	テーマ	開催期間	人数
1	週イチたまりんぱ（全43回）	2012年5月16日（水） ～2013年3月13日（水）	延べ 26人
2	月イチたまりんぱ（全12回）	2012年4月～9月第3金曜日 2012年9月～2013年3月第3水曜日	延べ 15人
人数合計			41人

※時間はいずれも16：00～19：00

II 実践の展開

2013 年度「子ども・若者への男女共同参画啓発事業 『たまりんば』」開催状況

回	テ ー マ	開催日	人数
1	好きなことを何でも話そう	2013 年 4 月 19 日（金）	0 人
2	映画を観て、みんなで話そう	2013 年 5 月 17 日（金）	1 人
3	写真①マニアックな写真を撮ってみよう ～自分の世界を写す～	2013 年 6 月 21 日（金）	2 人
4	写真②自分だけの『作品』を作ろう ～自分で撮った写真でポストカードを作る～	2013 年 7 月 19 日（金）	5 人
5	音楽を使って自分を表現しよう	2013 年 9 月 20 日（金）	1 人
6	おいしい時間を過ごそう①	2013 年 10 月 18 日（金）	1 人
7	消しゴムはんこ！オリジナル年賀状を作ろう！	2013 年 12 月 20 日（金）	4 人
8	自分の体のこと、考えてみよう	2014 年 1 月 17 日（金）	4 人
9	おいしい時間を過ごそう②	2014 年 3 月 14 日（金）	1 人
人数合計			19 人

※時間はいずれも 16:00～20:00

意気込んで開催を迎えたが、初年度の参加人数は振るわず、事業の趣旨について再協議するなど見直しを行う状況であった。さらに「たまりんば」に参加する女子生徒たちは我々の想定とは違い非常に幼かった。コミュニケーションに不安を持ち、学校での居場所や友人関係に悩んでいる、または母親に勧められて目的が明確でないまま参加する中高生もあり、当事者にとって恋愛や性の問題など遠い未来の出来事だった。

参加人員で評価を行う事業ではないが、毎回の予想を下回る参加者に企画側と対象者との認識のズレを大きく感じる事となった。反面、大きな刺激となったのがピア・サポーターたちとの協働作業だった。ターゲットの中高生たちの不安を理解し、必要な支援や情報を考え、いかにすると男女共同参画意識に基づく自己尊重や自己肯定感を持つことができるのか多くの時間を話し合いに費やした。これにより、支援者である大学生・若年社会人たちが男女共同参画について学び、成長する機会となった。



写真1 週イチたまりんぱの様子

また、事業を開催する中で参加者またはターゲット層の意見から3つの問題点を認識した。

1点めは、対象者が通いながれた場所での開催の希望だった。札幌の中心部に所在し、主に社会人やシニア層などが利用する率が高い施設であるため「大人の施設」といった印象に加え、往復の交通費が負担となる。学校など通いながれた環境により安心感を確保する。または“特別なイベント”企画などの工夫が要望された。

2点めは、中高生が単身での行動や参加に慣れていないことから、事業内容に興味関心を持っていても一人では参加に勇気を要することだった。

3点めは、友人と共に参加すると本当に話したいことは話せないというジレンマが生じるとのことだった。親密な友人関係の間の悩みこそ開示できない状況にあった。

想定外の事象が連発する中で自信を喪失しつつあったが、市民団体や支援活動を行う方々からは根気強く継続すべきというエールをいただいた。若年層が抱える課題や悩みを社会全体の課題として公共施設が力点をおいて取り組んでいるということで課題を広く知らせ、今後の若年者の支援の広がり

Ⅱ 実践の展開

有意義であるとの理由だった。公共施設ということで保護者からの信頼を得やすいことから、支援の「入口」または「玄関口」としての機能を市民に示すことも支持された。

繁華街等に滞留するなど居場所を見つけられない中高生の安心安全な居場所作りという当初の目的でスタートした「たまりんば」ではあったが、参加する当事者からの意見や要望を取り入れて変容を続けていくこととなった。

2014年には特別企画として札幌市内大通り公園に位置するシンボルタワーである札幌テレビ塔を会場に「恋バナしよう♡in テレビ塔」などで話題を集めた。

「たまりんば」の1点めと2点めの問題点を改善するため、2013年からは「出張たまりんば」という事業を新設し訪問型で展開した。定時制課程がある市立大通高校（以下、大通高校）の協力をいただき授業の合間の休み時間を活用しピア・サポーターと参画センター職員が訪問する形で実施した。このときキーパーソンとなったのが当時大通高校のスクール・カウンセラーで臨床心理士の太田滋春氏と同校の養護教諭（特別支援教育コーディネーター）であった渡辺千鶴教諭である。この方々からのアドバイスで折衝が円滑となり、学校側のニーズに寄り添うことで高校生たちの参加ハードルを下げることができた。

学校での開催にあたり、友人とともに参加する生徒はグループを分け離れた場所に配置することで3点めの問題点も是正することができた。

この事業での成果として紹介できる事例としては、同世代と話題が合わず孤立を感じていた生徒は大通高校での数回の「出張たまりんば」に参加し、ピア・サポーターとなら会話が楽しめることを感じ、そこから参画センターでの「たまりんば」にも参加を始めた。その後は自分と同様の境遇にある後輩の支援を志望し自身がピア・サポーターとして活躍するようになった。

また、ピア・サポーターに対話を通して親身に寄り添ってもらい否定せずに受容されことで安易な将来ビジョンを見直し、社会へ出る勇気を回復できたという事例があった。

表2 2014年 「子ども・若者への男女共同参画啓発事業「支援者対象事業」」

タイトル	発表者・パネラー	開催日	人数
ピア・サポーター活動報告 ①「『たまりんぱ』これまでの活動」 ②「『たまりんぱ』の活動が自分を変えた」 ③「『たまりんぱ』の活動で得たことを仕事で活かす」 ④「『たまりんぱ』のこれから」 <パネルディスカッション>	<発表ピア・サポーター> ①堤 翔平さん ②牛島 佑さん ③大村 友華さん ④岩城 志歩さん <ディスカッション・パネラー> 太田 滋春さん（臨床心理士） 蒲生 崇之さん（市立大通高等学校） 根立 美奈子さん（ピア活動団体 札幌たまりんぱ / 養護教諭）	2015年3月 15日（日）	27人



写真2 出張たまりんぱ（大通高校）

5 人材育成と成果の広報

これら「たまりんぱ」事業とこれを支える学生による「ピア・サポーター」の人材育成事業として市民活動団体の「ピア活動団体 札幌たまりんぱ」と共催で高校生・学生を対象にした「ピア・サポーター養成講座」を開催し活

Ⅱ 実践の展開

動の継続に努めた。

2014年度の末には「ピア・サポーター」のこれまでの活動を発信することにも注力した。1つは札幌市内の学校教職員や若年層支援団体を対象として、中高生のための「たまりんぱ」の活動を事例として発表し、学校や関連団体との連携のきっかけとなることを目的に実施した。登壇した「ピア・サポーター」たちは、活動によって自分自身に起こった変化と、中高生との対話から生まれた感動などを自分の言葉で発表した。

2つめには「ピア・サポーター」たちの活動を冊子として作成した。札幌市内の若者活動センターなど関係施設に配布し外部からの好評価をいただくことができた。

表3 2013～2015年度 「子ども・若者への男女共同参画啓発事業『出張たまりんぱ』」

	テ ー マ	開 催 日 時 間	会場	人数
1	自分を知ろう！ ～コラージュで新たな自分を発見～	2013年7月17日（水） 16：00～18：00	大通高校	8人
2	ピア・サポーターと一緒に折り紙アートをしよう！	2014年1月27日（月） 12：00～15：00	大通高校	22人
3	折り紙&ペーパークラフトをしよう	2014年7月17日（木） 12：00～14：00 16：00～17：50	大通高校	36人
4	ピア・サポーターとすごろくトークをしよう！	2014年12月19日（金） 13：00～15：00 16：00～17：50	大通高校	25人
5	ピア・サポーターと一緒に折り紙を折りながら話そう！	2015年10月27日（火） 12：10～14：00 16：00～17：50	大通高校	34人
6	サイコロトーク&折り紙工作	2015年11月14日（土） 10：00～11：30	札幌市立 栄南中学校	16人
7	ピア・サポーターと一緒に人生すごろくをしよう！	2015年12月3日（木） 12：10～14：00 16：00～17：50	大通高校	34人
8	「デートDVってなに？」 （ピア・サポーターからのお話、すごろくトーク）	2016年2月6日（土） 10：00～11：45	札幌市立 栄南中学校	12人
人数合計				187人



写真3 ピアサポーター活動報告会

実践事例2 たまりんば特別企画「夢を形に！お仕事研究会」

中学生・高校生が、将来性別にとらわれることなく、自由に職業選択するためにも早い段階から自分の将来について考え、準備ができるよう若年のロール・モデルとの出会いを作ろうと企画したものである。それまで女子大での「キャリア講義」の学生からの感想文から、最も身近なロール・モデルが母親であり妊娠・出産で仕事を退職して子育てを経て、後にパートで働くという多くの姿から学習し、学生自身も同様の人生を歩むイメージが刷り込まれ、それを望む女子学生が多いことがわかった。

そのように狭まってしまった未来のイメージを情報によって広げ、多様な選択肢の中から将来像が描けるよう若年社会人のロール・モデルと出会う「夢を形に！お仕事研究会」を企画実施した。大学進学前に情報提供があれば、職業選択の可能性が更に拡大することが期待できることからこの事業のターゲットを中高生とした。

この事業でもっとも貴重だったのが、児童生徒のロール・モデルとして登壇いただくゲスト・スピーカーを20代～30代前半で選定したことにある。

II 実践の展開

参加する高校生や中学生に、より身近な存在として感じてもらうためである。ロール・モデルが参加者の親の世代では、仕事に対する姿勢や価値観、言葉の使い方など参加者とかけ離れたものになってしまうと考えたためだ。

実施に当たっては中高生が仕事場や内容を理解しやすいよう、ゲストには平易な言葉を使ってもらい、実際の職場の様子を想像できるよう資料には画像を多用して仕事を可視化した。また、仕事の臨場感やイメージ増幅のために、実際に扱うものを持参いただくとともに、仕事のウェアなどを着用していただいた。

さらには聞き手を設けたインタビュー形式で実施するなど運営にも工夫を凝らした。なお、インタビュアーにはゲストと同年代である若手職員を起用しゲストの緊張感を緩和し参加者に親近感を持たせた。

表4 2012年度～2015年度 「子ども・青年への男女共同参画啓発事業
『夢を形に!先輩に聞く お仕事研究会』」

	タイトル	ゲスト・スピーカー	日 時	人数
1	憧れのファッション業界編	セシル・マクビー 押川 由依さん	2012年11月29日(月)	7人
2	どんな仕事か気になる! 公務員編	札幌市税制局南部市税事務所市税課 田原 利奈さん	2012年12月20日(木)	8人
3	パティシエ編	小樽洋菓子舗ルタオ パティシエール 西村 衣織さん	2013年8月23日(金)	13人
4	動物とかかわるお仕事編	札幌市円山動物園 獣医 菅原 里沙さん	2013年11月15日(金)	12人
5	看護師編	KKR 札幌医療センター 男性看護協会 伊藤 勇樹さん	2014年2月21日(金)	11人
6	ドボジョ編	ドービー建設工業株式会社 石井 めぐみさん	2014年8月22日(金)	10人
7	フォトグラファー編	フリーランス・フォトグラファー 伊藤 好美さん	2014年11月28日(金)	3人
8	航空業界編	株式会社 AIR DO 運営本部客室部 羽田客室乗員グループバーサー 神谷 遊さん	2015年2月27日(金)	12人
9	ゲームプログラマー編	ゲームドゥ 千葉 於理衣さん	2015年9月24日(木)	17人
10	リケジョ編	ヒューマンコンピュータ インタラクシオン研究室 助教 棟方 渚さん	2016年3月19日(土)	6人
人数合計				99人

参加者数はテーマ（業種）により波があり、中高生の「なりたい職業ランキング」と比例しないということも分かった。実際に業務内容がイメージできるものでなければ行動に結びつかないということだろうか。理由は不明である。

性別にかかわらず希望する業種に果敢に挑戦して実現したゲスト・スピーカーの姿勢から強いメッセージを提供できたことが参加者からの感想などから読み取れた。

さらにこの事業でも、前段の「たまりんば」ピア・サポーターが活躍し、グループでの話し合いを円滑に進める促進役としての役割を果たした。参加者をグループに分け、それぞれにピア・カウンセラーを1名配置しグループでの自己紹介や意見交換、ゲスト・スピーカーへの質問促進など重要な役割を果たした。

「お仕事研究会」には保護者が同伴される場面も多かったが、会場後部座席にて見守りいただき参加者が自立して質問やディスカッションに参加できる環境づくりを行った

実践事例3 子ども・若者への男女共同参画啓発事業「就活女子」事業

大学を卒業後、どのような仕事に就き、どのようなキャリアを重ねるかは、長期的視野を持って早い段階から自分の将来を見据えていくことが重要である。自分らしく働きキャリアを持続していくために、働く女性の権利や抱える問題について理解を深め、ライフイベントが多い女性が留意すべきポイントを伝えるために実施した事業である。

きっかけは毎年財団に入職する新卒採用の女性職員たちの声である。就職活動中の迷いや苦しみ、あきらめや自信の喪失など様々に精神的な揺さぶりを受け、中長期の人生計画など考える余地がなかったというものだった。また、社会に出て学び知る男女共同参画の視点を学生時代に身に付けておきたかったという声もあった。

さらに女性のキャリア形成事業に参加する社会人の先輩女性たちからは、

II 実践の展開

「自分たちのように遠回りしないよう就職の前に学び、情報を得てほしい」という次世代を意識した意見も聞かれた。

若手職員たちが自身の就活中を振り返り、更に後輩たちの意見も聞きながら必要な情報を提供するセミナーを企画した。内容は人生観と職業観を改めて整理し、ライフキャリアプランを描きなおし、さらに就職活動で直面する悩みを共有しストレス・ケアの方法を学ぶものとなった。参加学生からは孤立感からの解放と社会に出ることの恐怖感が払拭されたなどの反響があった。

2015年1月に開催した「女子学生のためのライフプランニング講座」は「就活女子」事業の集大成といえるものだ。過去の「就活女子」講座に参加した学生とピア・サポーターの有志でチームを組み企画立案を行った。議論を重ね、就職前に自分たちが必要としている情報を得られる内容とし、開催に向けてはSNSで情報拡散し男女を問わず友人に参加を呼びかけるなど、ターゲットに対して効果的な広報活動にもつながった。かつては「結婚と仕事の両立など考えられない」と語った女子学生たちの意識に大きな変化をもたらした事業となった。

表5 2012年度～2015年度 「子ども・若者への男女共同参画啓発事業
若年層向け講座」開催状況

	タイトル	日 時	人数
1	3年後、きっとイキイキ！就活女子のためのプレセミナー ①「『私がしたい働き方』って？」 ②「就職して3年目、女子が直面すること？」	2013年3月1日（金） 2013年3月8日（金）	31人
2	就活女子のための息抜きサロン ～私がしたいホントの仕事の見つけ方～ 「就活女子のホンネカフェ」①③ 「私がしたいホントの仕事」②④	① 2013年8月19日（月） ② 2013年8月22日（木） ③ 2014年3月4日（火） ④ 2014年3月7日（金）	29人
3	仕事、結婚、出産、・・・女子学生のためのライフプランニング講座 (SAPPORO WOMEN'S EXPO)	2015年1月17日（土）	50人
4	就活女子講座～ワタシらしいキャリアプラン～ 先輩のお話～就職活動・仕事・夢のこと	2016年3月25日（金）	8人
人数合計			118人

SAPPORO WOMEN'S EXPO

将来、イキイキ働く
「わたし」になりたい

仕事、結婚、出産……

女子学生のための
ライフプランニング講座

結婚、妊娠、出産などのイベントを視野に入れたライフプランニングの方法を学び、生涯を見通した就職活動について考えます！

日時

平成27年1月17日(土)
13:30～15:30

会場

札幌エルプラザ公共4施設
環境研修室1・2(2階)

札幌市北区北8条西3丁目札幌エルプラザ内

参加費 無料

定員 50名

対象 札幌市内、または近郊に居住が通勤する女子学生



講師：白河 桃子さん

(少子化ジャーナリスト・作家・
相模女子大学客員教授)

札幌市男女共同参画センター主催

写真4 ライフプランニング講座 チラシ

実践事例4 若年層の支援者向け講座

2012年以前、思春期の性や悩み、デートDVなど若年女性に向けた事業を当事者または同世代をターゲットに行ってきたが、集客には結びつかず啓発としての成果が非常にわかりづらい状況であった。

若年女性の状況改善のためには周囲の大人たちの行動や声かけ、態度が重要なポイントであると感じ、2012年からはターゲットを変更し、女性たち

II 実践の展開

の支援者または仕事などを通じて若年女性と接することの多い周囲の大人を対象とした。具体的には学校教員、養護教諭、児童会館職員、行政関係者、保護者などである。

そうして若年層に関わる大人たちに男女共同参画の視点を持って子どもと向き合うことの重要性を学んでいただき、さらに思春期の子どもに関わる大人の情報交換の場やネットワークづくりの場を創出しようと実施した。

2013年度には2012年の参加者等から収集した意見・要望を踏まえ、電子媒体の掲示板などを活用した思春期相談を実施している上村医師を講師に迎えた。看護学校の学生が学校へ出向いて行う性教育など、対象者と年齢差が少ない支援者の存在の重要性を発信した。

2014年1月に放送されたNHK「クローズアップ現代～あしたが見えない 深刻化する“若年女性”の貧困」の放送を契機に若年女性の貧困がにわかに世間で注目を集め始めた。

国の成長戦略として「女性が輝く社会の実現」が華々しく脚光を浴びる一方で、固定的性別役割分担意識によって、経済的自立に困難を抱えるまたは親の世代からの負の連鎖などで若年女性の生活困窮が深刻化している現状の認識を高めようと、学識者からもヒントをいただきながら事業を企画し、2015年には「カツカツ女子」という表現を生みだした。生活費を切り詰めてぎりぎりの生活をしつつも、周囲からみすばらしく見えない工夫をしてつましく生活している若年女性を表現したものだが、報道にも取り上げられるなど話題となった。「これってワタシのこと!!」と名乗り出る反響もあり多くの当事者意識を掘り起こしたものとなった。

このように時勢により取り上げる課題を様々変化させてきたが、いずれも個人的な問題と認識されがちな課題を社会の問題としてとらえ、当事者以外にも「自分ごと」として理解と認識をしてもらえよう実生活や現実上添った企画に挑戦した。

表6 2012年度～2015年度 「子ども・若者への男女共同参画啓発事業
『支援者向け講座』」

	テーマ・タイトル・内容	講演者・登壇者	日時・参加者数	人数
1	「思春期の子どもと向き合う 大人のためのシンポジウム」 ＜基調講演＞ 『ありのままの自分と他者を大切にする』 ＜シンポジウム＞ 『思春期の子どもと向き合う大人がすべきこと』 ＜交流タイム＞	遠矢 家永子さん（NPO法人SEAN） 梶井 祥子さん（札幌大谷大学） 中出 佳操さん（北翔大学） 川瀬 亜矢子さん（NPO法人女のスペース・おん）	2012年6月25日（月）	44人
2	思春期の子どもと向き合う大人のための講演会 『思春期の性と生』	上村 茂仁さん （ウイメンズクリニックかみむら院長）	2014年3月2日（日）	18人
3	※再掲 ピア・サポーター活動報告 ①『「たまりんば」これまでの活動』 ②『「たまりんば」の活動が自分を変えた』 ③『「たまりんば」の活動で得たことを仕事で活かす』 ④『「たまりんば」のこれから』 ＜パネルディスカッション＞	＜発表ピア・サポーター＞ ①堤 翔平さん ②牛島 佑さん ③大村 友華さん ④岩城 志歩さん ＜ディスカッション・パネラー＞ 太田 滋春さん（臨床心理士） 蒲生 崇之さん（市立大通高等学校） 根立 美奈子さん（ピア活動団体 札幌たまりんば／養護教諭）	2015年3月15日（日）	27人
4	「カツカツ女子考 ～ワタシたちがハッピーに暮らせる社会を考える」 ＜講演会＞ ＜トーク・セッション＞	講師：竹信 三恵子さん（和光大学教授） コーディネーター：竹信 三恵子さん トーク・ゲスト 田中 真由美さん（アパレル販売職） 下郷 沙季さん （北海道大学教育学院／札幌学生ユニオン共同代表）	2015年6月20日（土）	54人
5	「女子高生たちのリアル～私たちが札幌でできること」 ①仁藤夢乃さんによる講演「女子高生たちのリアル」 ②協力団体による発表	講師：仁藤 夢乃さん （女子高校生サポートセンター Colabo 代表） 協力団体： ・NPO ビーチハウス ・性暴力被害者支援センター北海道 SACRACH（さくらこ） ・NPO 法人いきたす「カタリバ北海道」 ・ピア活動団体「札幌たまりんば」	2016年1月9日（土）	48人

6 実践後のふりかえり

今回報告した事業展開後の2016年には指定管理の計画に基づきスマートフォンアプリの「LINE」を用いた「ガールズ相談」のトライアル実施を実現することになる。

当初の対象であった、犯罪被害者に陥りがちな弱者である若年女性の救済

Ⅱ 実践の展開

または被害防止のためにどのような手立てが効果的なのか確実に掌握ができているとは言い難く、実施してきた事業の評価、分析は不十分であるため研究実践の報告には値しないかもしれない。

しかし、急速な時代の変化の中で、公共施設は市民団体や活動団体のネットワークに負けない展開が求められていると感じる。非常に未熟な企画事業の数々であるが、市民目線のキャッチーなタイトルやターゲットの明確化で話題づくりができたと感じる。報道にも取り上げられる機会が多くわずかながら男女共同参画社会形成に向けた気運が高まったのではないかな。

若年層が抱える課題に対して様々な角度、手法、対象に向けて事業を展開してきた背景には参画センターがそれまでに培ってきた市民団体やNPO、市民グループとのネットワークがある。調査報告、白書など様々な統計データを参考にしたものの“リアルな女性たち”の姿は見えてこなかった。そのように方向性や手法に悩むとき、様々な方々に相談に乗っていただいた。札幌市配偶者暴力防止センターを受託している「女のスペース・おん」の方々、市民活動サポートセンターの相談員、養護教諭の方々、スクールカウンセラーや臨床心理士、キャリアカウンセラーなどである。そのような方々と日々気兼ねなく率直な意見を聞かせていただいた情報が、事業企画において統計データだけでは埋められなかった企画根拠の一部となった。また、募集開始後も参加者が集まらず集客に苦戦した事業においても、応援してくださったのは周囲の団体や若年支援をしている団体の方々、報道関係の方々であった。このような多くの協力者、団体の方々に心より感謝申し上げる。

(おかもと・みねこ 札幌市男女共同参画センター長)